施設概要

- ■床 面 積 400.75㎡
 - ●展示コーナー 29.81m²
 - ●展示室(1) 81.15㎡
 - ●展示室(2) 57.96㎡
 - 倉 庫 23.18m²
 - ●事務室 28.95㎡
 - ●その他 179.70㎡
- ■事業費
 - ●建築工事 124,733千円
 - ●展示工事 19,000千円
- ■構 造
 - ●木造平屋建瓦葺

利用案内

- ■開館時間
 - ●午前8:30分~午後5時
- ■休館日
 - ●毎週月曜日 ●国民の祝日の翌日
 - 年末年始(12月29日~1月3日)
- ■入館料
 - 一般 300円(団体200円)
 - ●高・中・小生 150円(団体100円)
 - ※団体は20人以上

石川県鳳至郡穴水町字中居口-110 〒927-0015 TEL (0768) 56-1231



能登中居鋳物館



展示の主旨

中居鋳物の起源は中世以前、古代にまで遡るのでしょうか。平安末期の「石納釜」、「能登釜」、「能登鼎」、鎌倉時代の「能登の国の釜」など文献に現れますが、その産地は明かではありません。おそらく海を通路として、あるいは陸づたいに鋳物師が往来するなかで鋳物技術が伝播し育まれたのでしょう。

室町時代の「能登利鉄多く大器を鋳る」の 大器は、近世の塩釜のような伝統的技術の継 承とされ、その生産は、波静かな鋳物原材料 のある中居浦と知られています。

長い歴史的変遷の中で、鋳物の生産と消耗が繰り返され廃絶しました。以後、鋳物業から左官の集落へと生活環境も変わりました。 現在、祖先の業績を忘れ去らないためにも、 鋳物資料を保存継承するのが鋳物館の目的です。

寄託された貴重な鋳物や古文書から、中居 鋳物史の再確認を主眼に展示紹介いたします。

鬼面



(日吉神社所蔵)

釣燈籠



(米田孫八氏所蔵)

蔵人所牒

